

ハワイ島でマグニチュード6.9の地震が発生しました

ハワイ諸島のハワイ島では、キラウエア火山の噴火が今月に入って報告されていましたが、日本時間の5日、マグニチュード6.9の地震が発生しました。このように火山活動と規模の大きな地震活動が重なる事がまれにあります。しかしながら日本では、このような事態を想定していない場合がほとんどです(通常は火山性の地震は最大でもマグニチュード6程度のため)。

実際、1914年の桜島の大正噴火(この時に大隅半島と桜島は陸続きになった)では、噴火後にマグニチュード7.1の地震が発生し、30名ほどの死者が出ています。

下の図はハワイ島で発生している5月5日12時現在の最新24時間の地震活動です(ハワイ島では125個の地震が観測されています)。



図中の水色の○がマグニチュード6.9の地震の震央です。ハワイ諸島はプレート運動により、年間10cmほどの速さで日本(アジア大陸)に向かって移動しています。またハワイ諸島は世界最大規模のホットスポットと呼ばれる、マントル深くに起源を持つ火山活動で形成されてきました。そのため、地球全体の座標系では同じ場所で噴火しているのですが、プレートが移動する事により、一列に並んだハワイ諸島が形成されたのです。この図では、「ロイヒ」という海底火山も図示しました。現在ロイヒ火山は活発な火山活動を続けており、50万年後にはハワイ島に匹敵する巨大な島が出現しているはずですが。

ハワイ島の火山活動は、これまでも継続的に続いており、今回の活動が特別な噴火という事はありません。また溶岩の性質から、爆発的な噴火を起こす可能性は極めて低く、そのため観光で溶岩の近くまで行く事ができるのです。



東北沖の地下天気図®

3月19日のニュースレターで、東北沖(特に岩手沖)で地震活動静穏化の異常が進行中である事をお示しましたが、この異常が5月2日時点で消失している事が判明しました。

下の図は今年の2月1日(左)と5月2日(右)時点の東北沖の地震活動に特化した地下天気図解析です。2月・3月の段階で広がっていた岩手県沖の地震活動静穏化が現在消失しています。岩手沖では大きな地震発生の準備が整ったと考えられます。

図中の黄色で示した領域が、今後マグニチュード7クラスの地震発生の可能性が極めて高いと考えられる領域です。

東北沖は地震活動度が日本の中で一番高い領域です。そのため、あくまで経験則ですが、発生時期については今後半年程度以内の可能性が高いと考えています。

